

## 令和2(2020)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

教務部 2020年度重点目標		
項目1	目標	コロナ禍によって変動した学校や社会の環境に対応した学校制度の整備をおこなっていく
	達成方法	教務規程の見直しの中で、様々な評価基準を反映した規定作成を進める
		レポート評価のループリック作成など客観的な評価方法を教科で進めもらう
		生徒が自主的に学べる授業の工夫を教科で進めてもらい、生徒の取り組みを記録していく仕組みを工夫していく
項目2	目標	コロナ禍によって変動した各種行事の在り方を検討し、高2でのグローバルスタディツアーの取り組みやユネスコスクールとしての取り組みなどを生かす工夫をはかる
	達成方法	学校全体、各学年で行ってきた宿泊行事や情報教育などのプログラムの再検討を行う
		GLCを中心に進めてきた様々な問題に目を向け考えるプログラムや総合の在り方などを結び付け、持続可能なものにしていく
項目3	目標	他分掌やグローバルセンターとの連携を進め、大妻中野らしい制度作りを進めていく
	達成方法	学校で行われている様々な行事の見直しを進め、円滑な運営のために効率化をはかる
		新しく始まった行事の運営などを通して、今までの行事の交通整理をはかっていく
項目4	目標	新カリキュラムへの移行がスムーズに進められるように工夫していく
	達成方法	学校として育てたい生徒像が明確となるようなカリキュラム作りを教育課程委員会とともににはかっていく
		生徒の進路実現に適した制度作りをはかる

## 令和2(2020)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

進路部 2020年度重点目標(学力向上に向けて)		
項目	目標	コロナ禍のなか、生徒が自ら学ぶ授業の実践をすすめる。
	達成方法	「妻中サクセス」の身体化をすべての教育活動で図る。 タブレットや電子黒板などのICT機器の有効利用を図り、学び合いの機会を設ける。反転学習を実践し研究する。 授業の6要素「ねらい、メモ、反応、発表、質問、振り返り」の学習姿勢を身体化し、思考を伴う能動的な活動ができる授業の実践する。
項目	目標	コロナ禍の中、生徒の進路意識改革をはかる
	達成方法	建学の精神や校訓を身体化し、学ぶ意味をすべての教育活動で考えさせる。 生徒及び保護者を対象とした進路ガイダンスを計画的に実施する。 各種検定試験の積極受検を奨励する。
項目	目標	コロナ禍の中、中学の基礎基本事項の定着をはかる。
	達成方法	MMT(Monday Morning Test)を継続して実施し、成績不良者への指導を徹底する。 基礎基本事項を精選し、その定着に教科担当者だけでなく学年団全体で取り組む。
項目	目標	コロナ禍の中、大学受験への支援態勢を強化する。
	達成方法	平常日の放課後及び長期休業中に実施する受験対策講座を充実させる。 大学入試に対応した講習を充実させる。
項目	目標	教師の受験指導力アップをはかる。
	達成方法	各種研究会や研修に参加して、最新情報を収集する。 大学入試問題の解き合いと、検討会を実施する。

## 令和2(2020)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

生徒部 2020年度重点目標(生きる力育成に向けて)		
項目1	目標	グローバル時代を生き抜くスキルを習得する
	達成方法	異文化や多様性を理解し、対応力を身につける大切さを学ばせる グローバル社会で生き抜くために、自分で考える力、コミュニケーション力、協調性を持つ人材を育てることの重要性を理解させる
項目2	目標	校訓「恥を知れ」を生活指導の基本的方針として指導し、生活習慣を定着させることを目指す
	達成方法	登下校指導、日々のHR指導、集会等を通じて、挨拶の励行、マナー・モラルの意識向上、並びに学校の決まりや社会のルールを遵守することの意義と重要性を理解させ、生活習慣として定着させる 全教員の生徒指導上のベクトルを合わせ、丁寧な対面教育を心がける 自ら学校生活の満足度を引き上げることを課題として課し、設定した目標を達成する経験をもつことなどにより自己肯定感を高め、充実した学校生活を送ることが、本校生徒としての本分であり、そのことが好ましい生活習慣の定着にも資することを理解させる
項目3	目標	豊かな心を養い、自他共に誇りを持てる学校づくりを目指す
	達成方法	道徳・LHR・集会等の指導を通じて、「思いやり」「寛容」の心をもつ、心豊かな生徒を育て、他者の「心の痛み」を理解するとともに、信頼と共感を得ることができる人材を育てる 多様な学びの機会の一つとして、部活動を位置づけ、生活全般の中でバランスのとれた体制の下で、持続可能な活動を目指す
項目4	目標	困難を乗り越えて、強い意思をもって逆境に打ち勝ち、強く生きる力を培う
	達成方法	新型コロナウイルス感染防止のために経験している非日常的な困難や、逆境・挫折に負けない強い意志をもつことの重要性を理解させる 個人としての自らの対応力、忍耐力を高めると同時に、学園祭、合唱コンクール、生徒会活動を通じて、他者との協調性、連帯、共感の力が、自分の生きる力になることを理解させる 文化祭においては、コロナ禍の下という制約の中で、何ができるか、何をなすべきかを考え、実行に移す逞しさを發揮する経験を持たせる

## 令和2(2020)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

入試広報部 2020年度重点目標		
項目1	目標	本校の実践・取り組みを広く、正確に外部に伝える。
	達成方法	COVID-19の影響下での新たな広報の仕方を検討し、積極的に取り組む
		教員全員による塾訪問を継続。訪問のタイミングで伝えるべき内容を明確にする。
		COVID-19下での、新たな広報戦略を探り、実行する。
項目2	目標	Webサイト、ネットを利用した情報発信を効果的に行う。
	達成方法	ホームページの情報updateを定期的かつ細やかに行う。
		web説明会、online説明会などリモートでの学校説明を導入する。
		WEBサイトやアプリ等のネット媒体を使った広報ツールを活用する。
項目3	目標	GLC入学希望者のさらなる増加を目指す。
	達成方法	ニューヨーク会場入試を滞りなく実施することで、新たな北米市場を開拓する。.
		COVID-19の感染状況に応じた海外広報活動を実施する。
		COVID-19の感染状況に応じて、海外帰国生入試の実施方法を柔軟にとらえ、受験生を確保する。
項目4	目標	中学入試について柔軟に対応しつつ、定員を確保できるように実施する。
	達成方法	募集要項の遵守を目標にしながら、COVID-19対応を盛り込んだ入試運営を行う。
		入試に関して、受験生に不安を与えないような情報発信をし、受験生の確保に努める。

## 令和2(2020)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

企画室 2020年度重点目標		
項目1	目標	学校を、生徒にとっての「成長の場」にするための授業・考查・評価デザインを継続的に企画実施する。
	達成方法	コロナ禍において実施したオンライン在宅学習のスタイルを検証しながら、学校における授業の意義や学校生活のもたらす教育効果についてPMTと連携して再確認する。その検証結果を学校全体で共有することで、大妻中野としての新しい学習スタイルを発信する。  進路部のすすめる「妻中サクセス」を意識した授業のフレームワークを研究・提示し、教員相互の授業研究や授業見学を促進できるような機会をつくる。また、全教科の定期考查検証を進路部と連携しながら、生徒の力を伸ばすような評価方法の提案を準備する。  「大妻中野で育てたい力」を設定して、学校行事などを勘案しながら6カ年を通じて配置する。そのループリックをカリキュラムマネジメントコアチームと連携して作成し、「Challenge/Construct/Create」を軸とする教育プログラムを整理していく。
項目2	目標	継続していく大学入試改革に向けての対応と「e-ポートフォリオ」の発展的継続活用を生徒・教員ともに意識づける。
	達成方法	項目1であげた妻中ループリックにもとづいて「何を記録するべきか」を整理し、全員に共通する記録項目と、それぞれの活動でつけられる「能力」を一覧にまとめる。振り返りと改善のPDCAサイクルの「身体化」をすすめる。  グローバルセンター・外国語科と連携して、英語4技能に向けた英語活動の充実と全校化を継続する。  新学習指導要領に向けたカリキュラムの編成について、教務部・教育課程委員会と連携して企画立案に関わる。 外部4技能検定への対応に向けて、外国語科と他教科のクロスカリキュラムを継続して検討する。
項目3	目標	グローバル校として多様性の受容と自由の相互承認ができる学校にする。
	達成方法	大妻中野生にどのようにあってほしいかということについて、生徒部と連携して「Otsuma Nakano Goals(ONGs)【仮称】」を策定する。
		教員のマインドセットを「ONGs」にフィットするように最適化する。生徒への接し方や課題設定のしかた、部活動の方針などが同じ方向を向くように働きかける。
	達成方法	生徒の学びや知的好奇心を向上させるような具体的なしきけを実施する。

## 令和2(2020)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

### グローバル・センター 2020年度重点目標 Global Center – The Goals to achieve for 2020

G o o 目 a 標 		"Otsuma Nakano as School for Global Gateway" – "Beyond School" SGH Associate 5年間の取り組みを継承し、また、ユネスコ・スクールの初年度として、より一層、Society 5.0に対応した教育技法を研究するとともに、国内外の様々な組織と連携し、その成果を本校全体への還元を進めていく。それにより、文部科学省へ申請した目標の達成に資する。
S t r 達 a 成 t 方 e 法 g y		ユネスコ・スクール(Unesco School)としての取り組みを具体的に進める。オンラインを活用し、他校と協働したSDGs達成のためのワークショップなどを設定、実施していく。また、その成果を、TEAMSやmanaba、各種会議で配信し校内への浸透を進めていく。
G o o 目 a 標 		"アウトソーシングとアウトリーチ – Outsourcing and Outreaching"への取り組み。Model UN, HLAB, Henda, WISH, TEDx, SGH Forumなどの国内外の組織と交流し、各種のプログラムの情報提供や参加、企画、実施を進め、その進行状況を共有化できるように校務運営会議で、報告する。また、外国語科、地歴公民社会科を中心に教科との連携を進め、プログラムへ参加する生徒と一緒にファシリティしていく。今年は特にonlineで、より一層、様々な組織と繋がる。
G o o 目 a 標 		本校SGH構想調書にある「留学をしたり、将来、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合では、SGHプログラムの対象となった生徒については、全員がこうしたことを考える生徒になることを目標とする」に向けて、留学する生徒、本校に受け入れる留学生の生徒と海外大学(国際併願)を目指す生徒数を前年度以上にする。
S t r 達 a 成 t 方 e 法 g y		トビタテ！生を筆頭に、留学経験者、海外大学進学者による「エヴァンジェリオン活動」を積極的に行い、留学と海外大学進学の持つ意味を卒業生や経験した生徒からこれまでの生徒に伝え、周知できるように、学校のウェブサイトでの発表、説明会の開催などを重ねていく。
G o o 目 a 標 		「トビタテ！留学JAPAN」、「HLAB」、「筑波グローバル・リーダーズ・プログラム」、「アメリカ大使館」、「ブリティッシュ・カウンシル」、「オーストラリア各州政府」、「フランス大使館」、「コリブリ」などと連携し、それぞれの留学や進学プログラムへのチャレンジをさらに積極的に生徒に薦め、そのための説明会、報告会などをonlineで積極的に実施していく。
S t r 達 a 成 t 方 e 法 g y		海外大学やSGHに進学した卒業生を積極的に活用し、その経験を在校生に共有できるようにする。また、英語ネイティブ教員との協働による様々な国際プログラム企画、参加指導、国内大学(English Track)、海外大進学ガイダンスや相談、留学相談などをonlineと対面のハイブリッドで行う。
G o o 目 a 標 		グローバルセンターとして、英語での各種書類の作成などの教務実務、海外大学進学、留学、海外からの編入生受け入れとその後の指導に必要な教育実務を英語で行うシステムと人材の育成を継続してより一層進めていく
S t r 達 a 成 t 方 e 法 g y		英語で教育実務を実践できるグローバル・センター・コーディネーターを迎え、より一層、外部組織との十分な連携なども含め、文書の英語化、英語による校内の日常的なコミュニケーションの頻度を増やし、また、英文書類の作成をマニュアル化していく。
G o o 目 a 標 		本校教職員自体が複言語母語、多文化化していることを踏まえ、日本人教員と外国人教員の協働して生徒指導に当たれる体制を整備する。 Collaborating Japanese teachers and English native teachers for assisting with students writing various kinds of application essays for study abroad programs, transferring to international schools or local schools outside of Japan and applying to universities in foreign countries.
S t r 達 a 成 t 方 e 法 g y		外国人教員と日本人教員が、さまざまな校務でコミュニケーションをとり、本校と海外の学校を繋ぎ、海外の学校や帰国生に本校のメッセージを発信していく。 Collaborating and communicating with Japanese teachers and English native teachers for assisting with the editing of official school correspondence with various universities, middle schools, and our educational partners.